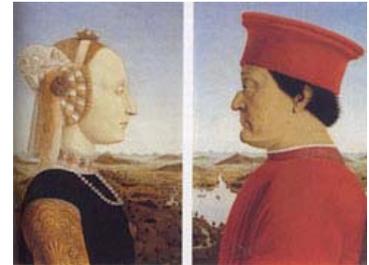


ウルビーノ (Urbino)



今回は 1998 年に世界遺産に登録されたウルビーノを観光してきました。ウルビーノは、アドリア海に面した街、ペサーロから内陸へバスで 1 時間 10 分行ったところにある城壁に囲まれた丘の上にある人口 15500 人の街です。先日訪ねた同じく世界遺産のサン・ジミニャーノも城壁に囲まれた丘の上の街でしたが、ウルビーノは、サン・ジミニャーノとはまた違う雰囲気がありました。この違いは、やはり、この街の歴史に関係しているのでしょう。

ウルビーノは、ルネッサンス時代ブオンコンシリオ・モンテフェルトロ家が代々治めるようになりました。モンテフェルトロ族で最も有名な人物はフェデリコ・モンテフェルトロで、彼の一度見たら忘れられない顔（鼻？）は、フィレンツェのウフィッツィ美術館にあるピエロ・デッラ・フランチェスカの描いた肖像画で見ることが出来ます。



彼は、優れた傭兵隊長でありその力で領地を 3 倍に広げたばかりではなく、文化の振興に力をいれ、ウルビーノをルネッサンス文化の代表的な街としました。街の中心にあるドゥカーレ宮殿は代表的なルネッサンス建築として有名です。また、あのラッファエッロはここウルビーノで生まれています。ミラノの「最後の晩餐」があるサンタ・マリア・デッレ・グラッツェ教会の設計で有名なブラマンテもこの街の出身です。ウルビーノは、17 世紀初頭まで栄えていましたが、その後凋落して現在に至っています。従って、今でもルネッサンス文化をそのまま閉じ込めてしまったような街なのです。

昼過ぎに、ペサーロからのバスはウルビーノの丘の下の広場に到着しました。街の入り口の門から街の中心のレプブリカ広場までは土産物やレストランが並ぶ石畳の上り坂の 1 本道です。しかし、上り坂が厭な人のためには 0.5 ユーロのエレベーターが用意されていて、ドゥカーレ宮殿の裏まで行くことが出来ます。この後の体力を考えて、当然のようにこのエレベーターを利用しました。



しかし、エレベーターの降り口からドゥカーレ宮殿正面のドゥカ・フェデリコ広場までは、やはり急勾配の道を徒歩で登らなくてははいけません。この広場にはドゥカーレ宮殿の他に、カッテドラーレとサン・ドメニコ教会の 2 つの大きな教会があります。教会をお昼休みで閉まる前に見学し、カッテドラーレ横にある洞窟礼拝堂（博物館になっています）に入り、ウルビーノのルネッサンス文化の鑑賞が始まりました。続いて、ドゥカーレ宮殿の中にあるマルケ国立美術館に入り、どっぷりとウルビーノの世界に浸ることになります。もちろん、ラッファエッロの「物言わぬ人」もここに 있습니다。



あまり、立て続けにルネッサンス文化に浸ると麻痺してきますので、ここで、街の中心レプブリカ広場に向かい、更に広場を抜けてラッファエッロ通りに入り、まず、本日のホテルにチェックインしました。本日泊まるホテルの名もラッファエッロです。その名のとおりホテルのすぐそばにはラッファエッロの生家がありました。この天才画家でしかも育ちの良さそうな色男の生家はすごく立派な家で、彼が裕福な家庭で育ったことがわかります。ここには14歳まで住んでいたとのこと。ここには若き日のラッファエッロが描いたと言われている聖母子の絵が残っています。彼の誰もが好む絵画の原点がこの家にあるような気がしてくるような生家でした。



ラッファエッロの生家から急勾配の道を登っていくと、そこにはローマ広場があり、ラッファエッロの銅像があります。そこからパノラマ通りを抜けると城壁の一角に砦があり、その前が公園となっています。ここから見るウルビーノの街は最高です。ちょうど、この頃、雷が鳴り響き急激に天気が悪くなり、公園についた頃にぽつぽつと大粒の雨が降り出しました。黒い雲に覆われ雷のなる響くウルビーノの街は、まるで悪魔が降りてきたようで、幻想的で不気味な感じさえもします。大粒の雨を避けるために砦に逃げ込みますと、そこも博物館で2ユーロをとられてしまいました。大粒の雨は更に激しくなり、雨だけでなく大粒の雹まで降ってきました。しかし、15分もすると、嘘のように雨もやみ、また青空が戻ってきました。まるで、熱帯地方にいるようなすごい雨と雹でした。砦の博物館は鎧と兵器が少しあるだけでしたが、砦の上に上がると、公園で見えた街よりも更に素晴らしいウルビーノの街が見えました。これなら、2ユーロの価値はあります。雨あがりの太陽の光に輝いたウルビーノの街は最高でした。もちろん、周りの自然とマルケ州の田舎の風景も素晴らしくいつまでも見たい風景です。景色をより美しくするための雨だったのかもしれませんが。



頭の中が素晴らしい風景でリフレッシュしたので、街に戻り、共通券でカバーされているもうひとつのカタドラーレ附属博物館を見学しました。この他にも博物館・美術館があるのですが、もう十分です。今度は、雨あがりのすがすがしい街中を「世界ふれあい待ち歩き」の開始です。城壁沿いに周りの景色と街を交互に見ての散策は楽しいのですが、この街は坂道ばかりで体力を消耗します。カフェで一休みをした後に、観光客で繁盛しているお土産屋、カフェ、ジェラート店を冷やかし、数あるレストランの中から2002年スローフード認定のレストランを見つけだして7時半に夕食です。ウルビーノは黒トリフの産地でもあったのです。レストランでは、ウサギの肉のサラダに、黒トリフのたっぷりに入ったパスタを頂きました。このレストランは2002年スローフード認定とちょっと古いので、心配していたのですが、小さな店は直ぐ客でいっぱいになり、味も上々でした。



次の日も快晴の天気が迎えてくれました。朝日のあたる街並みも周りの景色も、昨日にもまして素晴らしく、朝から気分が爽快になりました。しかし、この街に後ろ髪を引かれながら、日曜日には数が少ないペサーロ行きのバスに乗り込み、街に別れを告げました。さすがに、世界遺産の街です。ウルビーノは、今まで訪れた城壁に囲まれた丘の上の街の中では最高でした。



ミラノ中央駅からペサーロまでは直通的 ES City があります。朝の 7 時 35 分発でペサーロへは 11 時 5 分に到着（所要時間 3 時間半で 44.5 ユーロ）となります。直通以外は、ボローニャ乗換えとなります。ES でボローニャまで行き、リミニに経由でペサーロまでいくことができます。ペサーロからウルビーノまではバスで 1 時間 10 分です。ペサーロ鉄道駅の直ぐ右手にバス・ターミナルがありそこでチケット（片道 2.75 ユーロ）も購入できます。列車が 5 分程遅れたのですが、11 時 15 分発のバスに乗ることが出来たので、ミラノからウルビーノまで 5 時間弱で到着しました。ペサーロからウルビーノ行きのバスは、日曜日以外は 20-40 分間隔で出ていて、急行バス（所要時間 45 分で片道 3.5 ユーロ）もあります。但し、日曜日は 2 時間に 1 本で急行バスはありません。